

バランスアナログアキュライザーの活用(5)
ーバランスアナログアキュライザーの複数使用(3)ー

1. 始めに

ZANDEN のフォノイコライザー Model 120 を導入しましたので、このラインにバランスアナログアキュライザーを使用します。テーマ名は複数使用となっておりますが、2 個目のバランスアナログアキュライザーの単独使用で、使用箇所が異なるだけです。

2. バランスアナログアキュライザーの試聴方法

Model 120 の設置場所は、しなの音蔵のプリアンプを撤去し、接続に関してはケーブル取り回しなどで選択した結果、ZANDEN Model 120 の導入(2)で報告のとおり下記を選択しています。

LP-12→(フォノケーブル)→AACU-1000→Model120(アンバランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランス/バランス変換ケーブル)→

【Case1 : BACU-2000】 →P&フェーダー(バランス入力端子/バランス出力端子)
→ 【Case2 : BACU-2000】 (バランスケーブル) →300B シングルアンプ

入手したバランスアナログアキュライザーはアンバランス/バランス変換ケーブルから P&フェーダーへの入力と P&フェーダーからバランスケーブルへの出力に使ってみます。Case1 と Case2 の違いは、P&フェーダーへの入力側と出力側の違いとバランスアナログアキュライザーにおける信号の方向性の違いです。

なお、前者は Model 120 のみ使用時に働き、後者は LP-12 以外の Brooklyn DAC+からの入力も含めて働きます。

3. バランスアナログアキュライザーの試聴結果

音源は ZANDEN Model 120 の導入(2)で使用したものです。イコライザーカーブと位相と第 4 時定数の選択も同一とします。

Case1 の P&フェーダーへの入力端子に使用する場合、今回初めてのテストですが、基本的に Case2 の P&フェーダーからの出力端子に使用する場合とほとんど変わりはないものの、心持ち Case2 の方に鮮度感があるようにも感じます。

Case2 の P&フェーダーからの出力端子に使用する場合、この場合は既に ZANDEN Model 120 の導入(2)で実施済ですが、再度確認のため、試聴しました。結果は ZANDEN Model 120 の導入(2)と同様でした。

4. まとめ

上記の結果から、Case2 を選択し、現在 Brooklyn DAC+に出力使用している 1 個目のバランスアナログアキュライザーは、デジタル再生専用の DA-3000 に移動することになります。

これで 2 個のバランスアナログアキュライザーと 3 個のアナログアキュライザーの使用箇所が固定しました。

バランスアナログアキュライザー1	DA-3000 入力端子
バランスアナログアキュライザー2	P&G フェーダー出力端子
アナログアキュライザー1	SV-1(→DA-3000)出力端子
アナログアキュライザー2	Stage 1030(→Brooklyn DAC+)出力端子
アナログアキュライザー3	Model 120 入力端子

以上